

<平成29年度事業報告書>

【概況】

ここ数年の傾向として、ボート界において様々な要因でレース日程・開催場所の変更等が行われている。当協会の競技・普及・強化の各現場においては、前年と異なるオペレーションが必要となりその対応力が問われるところではあるが、加盟団体関係各位のご理解とご協力および各本部長はじめ理事、審判団、常任委員各位の尽力により、柔軟に乗り切ることが出来た。

競技人口の拡大に資する大会開催では、お花見レガッタの出漕クルー数増に対応しつつ安全面の確保も叶えるため二部制を導入した。

裾野を拓げボートの魅力を伝える普及活動では昨年以上のボート教室開催をした。

競技力の向上を目指した強化活動においては、愛媛国体において天皇杯皇后杯ともに3位入賞を果たすなど、ジュニアから成年に至る層の厚さを内外に示した。

以上のように、各事業の継続と一部新機軸への取組みを意識し活動できたことも大きな収穫であった。

一方、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けては、開催地地元競技団体として、公益社団法人日本ボート協会のレガシー計画の策定に協力した。東京都の動向を情報収集するなど一定の活動を行ったが、今後は、東京都が主導、組織委員会・公益社団法人日本ボート協会が進める会場整備計画に積極的に関わらねばならないため、当協会内に、施設および大会運営のノウハウのある方を中心に組成した専門チームを設立しなければならないと思料する。

各本部の事業報告は以下の通りである。

1. 競技開催事業

別表1の通り競技会を開催した。

2. 普及事業

- ・今年も谷古盾争奪マスターズレガッタ、東日本マスターズレガッタ、小学生交流レガッタを開催し、老若男女がレースに臨み、ボートを楽しんだ。

特に上記東日本マスターズレガッタは今年新たに東日本夏季競漕大会（1000m）に併設し、谷古盾レガッタと同じ枠組み（年齢別ハンディレース）でレースを設けた。（エイト10クルー、付クオード2クルーエントリー）

また、小学生交流レガッタは13クルーがエントリーし、熱戦が繰り広げられ、戸田ボートコースでのレースを楽しんだ。

詳細は別表2の通りである。

- ・ボート競技の底上げと競技人口の増大を目的として、従来より多摩川、東大島、水元、日本橋川、東墨田の都内5拠点を中心にボート教室、各水域のローカルレガッタ、マシシロイイベントを展開した。

詳細は別表3のとおりである。

- ・今年度も中学生が全国中学生選手権競漕大会をはじめ、全国三大会にて、大いに活躍した。その他、小中学生、各ボート教室会員が各水域のローカルレガッタに積極的に参加し、活躍がみられた。

3. 強化事業

- ・東京都代表クルーのブロック大会、国体結果は、別表4、5の通りであった。
- ・当協会所属選手の海外大会への参加状況は別表6の通りであった。
- ・愛媛国体に向けて選手の強化、競技力向上を図った。
- ・ジュニア選手を対象に強化合宿および講習会を実施した。
- ・トップアスリート事業7期を無事終了し、2名がボート競技を選び、現在進学先の高校で部活動およびクラブチームで活動している。
- ・トップアスリート事業8期生については専門プログラムを実施した。(平成29年12月終了)

4. 事業報告の付属明細書

平成29年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。